

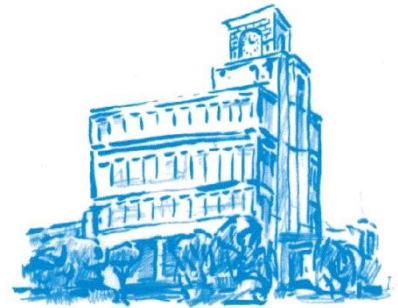


令和5年5月号(No246)

## こめられた「メッセージ」を授業改善に

伊丹市立総合教育センター  
所長 山下 拓志郎

4月18日、全国学力・学習状況調査が実施されました。今年度は、国語、算数・数学に加え、4年ぶりに英語が実施されタブレット端末を活用した「話すこと」の調査も実施されました。調査問題を見ると、インターネットによる情報収集の場面や電子メールを読む場面、タブレットにより課題を受け取る場面等が取り上げられるなど「ICTの日常化」が前提とされていることがよく分かります。



このような調査問題には、文部科学省からの「メッセージ」がこめられています。授業において、タブレット端末を学びの道具として活用すること、教科横断的な授業展開が必要であること、「主体的な学び」や「対話的な学び」が重要であることなどです。

令和5年3月8日、中教審から「次期教育振興基本計画について」が答申され、日本の教育をめぐる現状や今後の教育政策に関する方針等が示されました。基本方針としては、「持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、今後5年間の教育政策の目標と基本施策では、「全国学力・学習状況調査」については、「CBTの特性・利点を生かした出題等、調査の一層の質の向上、教育データの収集・分析・利活用の充実を図るため CBT 化を進める」と示されています。

このような国の方向性は、子どもたちの幸せの実現をめざして確かな学力の育成に取り組んできた本市の取り組みと重なるものです。学校においては、子どもたち一人ひとりが安心して学んでいるか、主体的に取り組んでいるか、教科の楽しさを感じられているか等に焦点を当て、授業改善や誰一人取り残さない取り組みをさらに充実させなければなりません。

もし、目の前の子どもがつまらなさそうに授業を受けていたら、今すぐ全国学力・学習状況調査問題を手にとって、メッセージを受け取るところから始めてみてください。

# 全国学力・学習状況調査問題

## を生かした授業改善

全ての教員が、学習指導の改善・充実に活用できる全国学力・学習状況調査問題

全国学力・学習状況調査は、小学校においては第5学年まで、中学校においては第2学年までに、十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容が出題されていますので、調査の対象学年だけでなく、全学年を通じた学習指導の改善・充実に活用するための参考とすることができます。各問題の「学習指導要領における領域・内容」には、該当する学年が示されているので、学校全体で組織的・継続的な取組を展開する際に活用できます。

### 1. 「めあて」の提示



子どもたちに本時の目標を明確に持たせる。

子ども達には本時の学びの見通しをもたせていますか？

### 2. 明確で端的な説明



教科の専門性を生かした授業を展開する。  
例えば、数学科であれば「数学的な表現」を用いて、適切に説明する。

教師が子どもたちより先に、問題から必要な情報を取り出し、まとめ、解決していませんか？

### 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成29年3月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」とされています。

また、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」と示されています。

以上の点等を踏まえ、調査問題は国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、学習指導要領に示されたそれぞれの教科の目標及び内容等に基づいて作成されることが基本となっています。

#### 今求められている力

- ①「何ができるようになるか」
- ②「何を学ぶか」
- ③「どのように学ぶか」
- ④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」
- ⑤「何が身についたか」
- ⑥「実施するために何が必要か」

平成29年 学習指導要領 総則より

### 3. 個での学び



子どもたちがより主体的に学習に取り組めるよう、課題に対して熟考できる時間を設ける。

子どもたちが個人で考える時間を十分に確保できていますか？

### 5. 振り返りの徹底とその質の向上



本時の学びをさらに深めるため、あるいは広げるための振り返りをさせる。

子どもたち自身に、本時の学びをまとめさせ、振り返りをさせていますか？

### 4. 協働的な学び

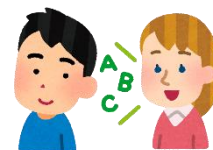


子ども達が自ら熟考した「考え」に基づき、他者と交流し多様な考えに触れさせる機会を設ける。

子どもたちが他者の考えを共有したり、協議したりする協働的な学びの場の設定はできていますか？

平素から「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善が大切

## 中学校英語において 「話すこと調査」が実施されています



英語の「話すこと調査」は、生徒1人1台タブレット端末を活用し、文部科学省 CBTシステム（MEXCBT：メクビット）を用いたオンラインの音声録音方式で実施されました。

### 【調査を受けた子どもの声】

- ・自分の声を録音するのが恥ずかしかった。
- ・内容が難しく、すぐに答えられなかった。
- ・問題がどんどん進むので、大変だった。
- ・うまく答えられたか自信がない。

### 【監督をしていた先生の声】

- ・タブレットの不具合の際、対応に困ったが、ICT支援員さんがいてくれて助かった。
- ・ペーパーテストが得意な子どもが、今回の調査では「難しい」という反応だった。これから授業改善をしていかなければいけないと感じた。

※話すこと調査については4月19日から5月26日の間に実施されます。

## 児童・生徒質問紙調査が オンライン実施されました



児童・生徒質問紙調査については一部の学校で、児童・生徒の活用する1人1台タブレット端末を用いたオンラインによる回答方式で実施されました。

### 【管理職の声】

- ・実施後の休み時間には調査結果を職員に共有することができた。
- ・課題改善に向けた話し合いをその日のうちからすることができた。
- ・記入漏れや未回答の児童の把握がリアルタイムにできるのでよかった。
- ・例年、改善に向けた取組のスタートは9月であったが、今年は1学期から進めることができる。

### 【担任の先生方の声】

- ・子どもたちはタブレットの操作になれているので、調査時間がかからなかった。
- ・当日欠席していた子どもも、後日スムーズに実施できた。
- ・紙での実施で生じる作業がなく、とても楽だった。
- ・困ったことは特になかった。

発行 伊丹市立総合教育センター  
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番  
TEL 072-780-2480  
FAX 072-780-2482  
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00  
水・土 : 9:00~17:00  
休館日 日曜・祝日、年末・年始  
総合教育センターHP <https://www.itami.ed.jp/>

### <教育相談>

電話 072-772-6171 (電話相談)  
072-780-2484 (来所相談)  
お子様に関する様々な悩みや課題、  
問題等の相談に応じています。  
(来所・電話相談)  
月・火・木・金 : 9:00~18:00  
水・土 : 9:00~17:00

## 令和5年度連載 (ICT活用事例集)

### 第2回 中学校2年生 数学科 単元「一次関数」

ねらい

「グラフの作成」を、大型提示装置に映し出し作成手順等をおさえながら、共有した。

活用効果

生徒は手元でもグラフ作成手順を確認することができるため、ノートへのグラフ作成がスムーズであった。

また、授業者は必要に応じて作成したグラフデータを大型提示装置に映し出せるため、生徒のつまずきにあわせた復習ができ、理解を深められる。

